

2011年度(2012年3月期)

第2四半期連結決算資料

株式会社 山 武



※ 本資料中、セグメント名称については次の通り略称で記述しております。

BA: ビルディングオートメーション事業
AA: アドバンスオートメーション事業
LA: ライフオートメーション事業

※ 数値は表示単位未満四捨五入しております。

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

- 目次 -

2011年度(2012年3月期) 第2四半期決算説明会

- | | | |
|----------|---|-------|
| 1 | 2011年度 第2四半期決算報告 | P. 4 |
| 2 | 2011年度 通期業績計画 | P. 17 |
| | azbilグループならではの | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none">● 「商いの創造」上期取組みの成果● 海外事業における「商いの創造」事例 | P. 21 |
| 4 | 株主への利益還元 | P. 26 |
| 5 | その他 | P. 28 |



第2四半期累計期間における事業概況



BA事業

ビルディングオートメーション事業

- 事業環境は当社想定の範囲内で着実に推移。
- 市場化テスト※入札案件を獲得し、受注は大幅に増加。
(前年同期比25.7%)
- 価格圧力はあるものの、環境負荷(CO₂)低減・節電ニーズは高く、引合い・提案件数は大幅に増加。

AA事業

アドバンスオートメーション事業

- 震災からの復旧・復興が迅速に行われ、輸出も好調だったため、国内設備投資は回復傾向。しかし、直近は不透明感が強まる。
- 国内FA市場向け制御機器は、部品の先行調達の動きもあり期初想定以上の需要拡大を見せるが、期後半に落ち込む。
- 海外の事業環境は期前半は堅調に推移していたが、制御機器関連で減速傾向。

LA事業

ライフオートメーション事業

- 震災・原発事故による一部工場の操業停止は短期間で収まり、業績への影響はあるものの想定より軽微に止まる。
- 堅調な都市ガスメータの需要に対してLPガスメータは需要減退期。
- 水道メータは新JIS規格対応により売価が改善。

※ 市場化テスト： 官民競争入札制度のことで、『競争の導入による公共サービスの改革に関する法律』に基づきこれまで「官」が行ってきた「公共サービス」について、「官」と「民」が対等な立場で競争入札に参加し、価格・質の両面で最も優れた者が、そのサービスの提供を担う制度。この市場化テスト入札において、複数年に亘る大型のサービス案件等を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しております。特に今回受注した「市場化テスト」に関しては、期間が3年から5年間に亘り、それぞれの契約額も非常に大きいため、当第2四半期累計期間におけるBA事業の受注増額の多くを占めております。

1 2011年度 第2四半期決算報告



2011年度 第2四半期決算 経営成績



《前年同期・計画比》

受 注

公共サービス民間委託の動き（市場化テスト）を捉えたBA事業を主にAA事業も伸長し、受注は前年同期を大きく上回る1,385億円（前年同期比12.4％増）を計上。

売 上

BA、AAの両事業が伸長し、売上高は前年同期比4.0％増の1,033億円となる。特にAA事業は、設備投資の回復により、前年同期比はもとより計画を上回る成長を達成。

利 益

社会保険料や退職給付費用等の経費増加要因はあるものの、増収を背景にAA事業が大きく利益を伸ばし、震災・原発事故のLA事業への影響が想定より軽微であったことから、計画及び前年同期比で増益を達成。

単位：億円

	2010年度	2011年度								
	2Q累計実績	2Q累計実績	前年同期比増減		2Q累計修正計画 2011/7/29	修正計画比増減		2Q累計 期初計画 2011/5/10	期初計画比増減	
	(A)	(B)	(B) - (A)	%	(C)	(B) - (C)	%	(D)	(B) - (D)	%
受注	1,232	1,385	153	12.4%						
売上高	993	1,033	39	4.0%	1,020	13	1.2%	990	43	4.3%
営業利益	38	47	9	24.1%	35	12	34.5%	25	22	88.2%
営業利益率	3.8%	4.6%	0.7		3.4%	1.1		2.5%	2.0	
経常利益	37	47	10	27.5%	33	14	41.5%	24	23	94.6%
四半期純利益	13	24	12	90.5%	15	9	63.2%	9	15	172.0%

2011年度 第2四半期決算 営業外・特別損益



《前年同期比》

- 特別損失は一過性の大きな要因※が無くなり前年同期比8億円減少の4億円となる。

※ 2010年度第2四半期累計期間の特別損失には、会計基準の変更による資産除去債務や環境対策費(計 約8億円)を計上。

単位：億円

	2010年度 2Q累計 実績 (A)	2011年度 2Q累計 実績 (B)	前年同期比増減	
			(B) - (A)	%
営業利益	38	47	9	24.1%
営業外収益	6	4	△ 2	△28.6%
営業外費用	7	5	△ 3	△36.1%
経常利益	37	47	10	27.5%
特別利益	2	3	0	14.6%
特別損失	12	4	△ 8	△67.0%
税引前利益	27	45	18	66.4%
法人税等	13	19	6	43.7%
少数株主利益	1	2	1	60.1%
四半期純利益	13	24	12	90.5%

《前年同期・計画比》

BA

売上高・セグメント利益はそれぞれほぼ期初計画通りの444億円、23億円を達成。受注は、契約期間が複数年となる大型サービス契約(市場化テスト)を受注したことから前年同期比25.7%増の762億円を計上。

AA

一部の市場にかげりが見られるものの、期初懸念された要因(サプライチェーン寸断による生産活動の低迷等)が大幅に緩和された結果、国内設備投資が順調に回復、海外市場も引続き堅調であったため、期初・修正計画も上回って前年同期比増収・増益を達成。

LA

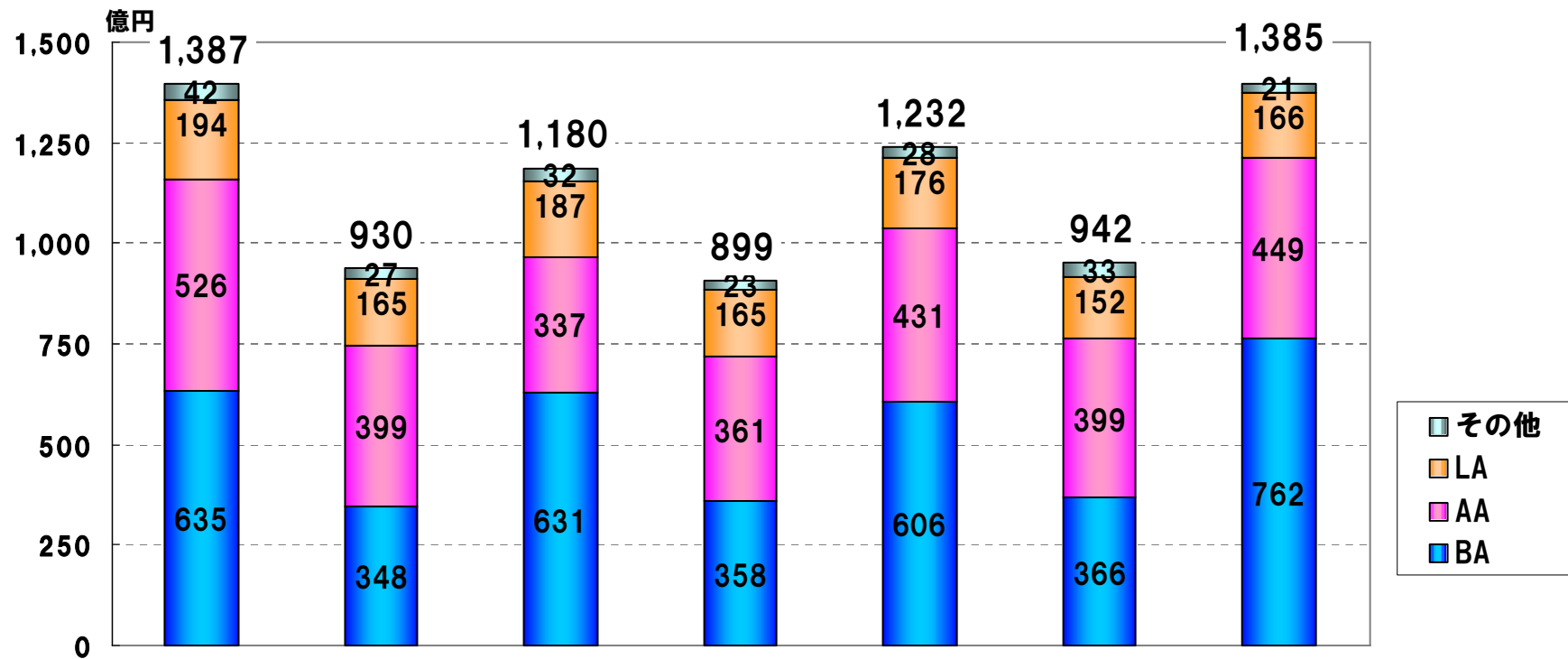
震災・原発事故による工場の一時操業停止やLPガスメータの需要減退の影響から前年同期比減収減益となるが、操業停止の影響軽減努力の成果等により減益幅は小幅に留まる。

単位：億円

	2010年度		2011年度							
	2Q累計 実績 (A)	2Q累計 実績 (B)	前年同期比増減		2Q累計 修正計画 (C) (2011/7/29)	修正計画比増減		2Q累計 期初計画 (D) (2011/5/10)	期初計画比増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%		(B) - (D)	%
B A 受注	606	762	156	25.7%						
売上高	422	444	22	5.2%	440	4	0.9%	440	4	0.9%
セグメント利益	25	23	△ 2	△ 8.7%	22	1	3.9%	22	1	3.9%
%	5.9%	5.1%	△ 0.8		5.0%	0.1		5.0%	0.1	
A A 受注	431	449	18	4.2%						
売上高	379	410	31	8.1%	410	△ 0	△ 0.1%	390	20	5.0%
セグメント利益	11	24	13	114.7%	17	7	40.0%	13	11	83.0%
%	2.9%	5.8%	2.9		4.1%	1.7		3.3%	2.5	
L A 受注	176	166	△ 10	△ 5.6%						
売上高	171	162	△ 9	△ 5.2%	160	2	1.3%	150	12	8.1%
セグメント利益	1	△ 0	△ 2	-	△ 3	3	-	△ 9	9	-
%	0.6%	△ 0.3%	△ 0.9		△ 1.9%	1.6		△ 6.0%	5.7	
その他 受注	28	21	△ 8	△ 26.8%						
売上高	30	25	△ 4	△ 14.9%	20	5	25.6%	20	5	25.6%
セグメント利益	1	1	0	19.8%	△ 1	2	-	△ 1	2	-
%	2.5%	3.5%	1.0		△ 5.0%	8.5		△ 5.0%	8.5	
連結 受注	1,232	1,385	153	12.4%						
売上高	993	1,033	39	4.0%	1,020	13	1.2%	990	43	4.3%
営業利益	38	47	9	24.1%	35	12	34.5%	25	22	88.2%
営業利益率	3.8%	4.6%	0.7		3.4%	1.1		2.5%	2.0	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

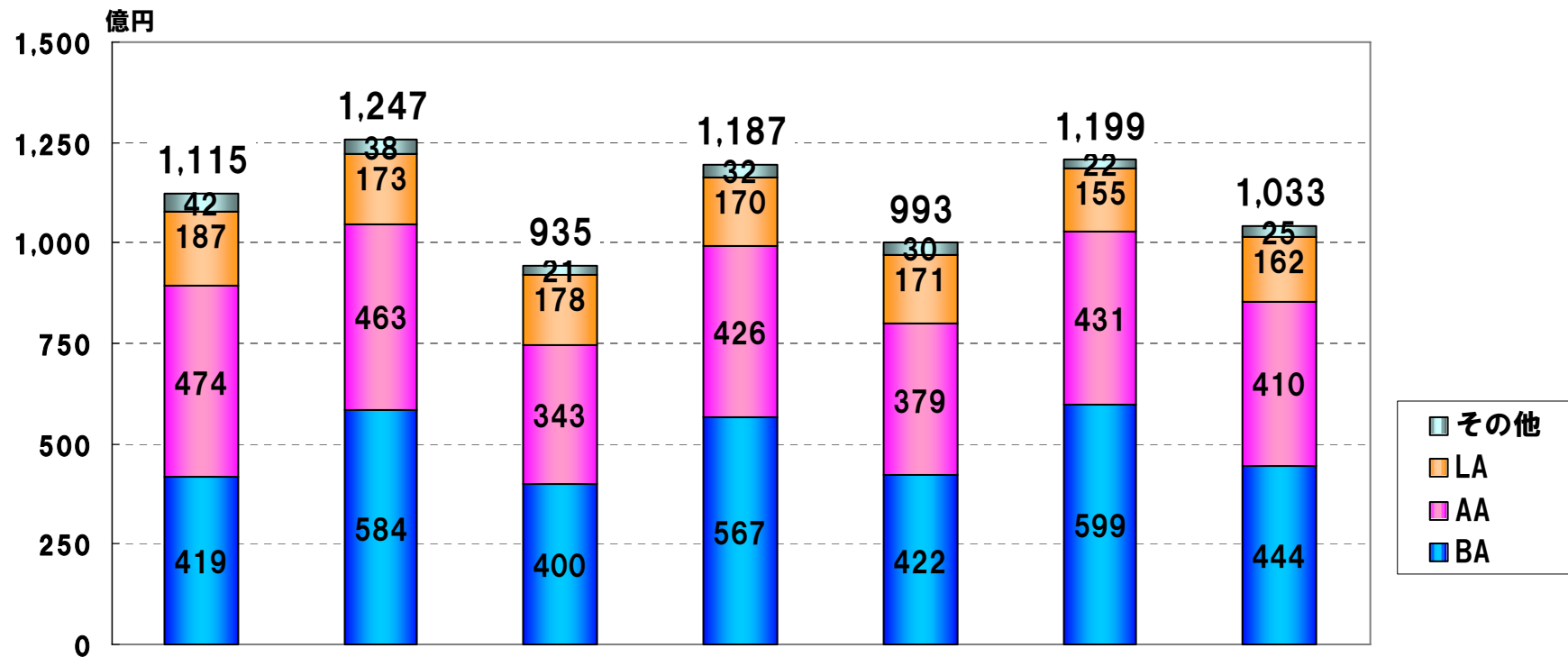
【参考】2008年度～2011年度 セグメント別受注高 推移



	2008年度 上期	2008年度 下期	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期	単位：億円
BA	635	348	631	358	606	366	762	
AA	526	399	337	361	431	399	449	
LA	194	165	187	165	176	152	166	
その他	42	27	32	23	28	33	21	
連結	1,387	930	1,180	899	1,232	942	1,385	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

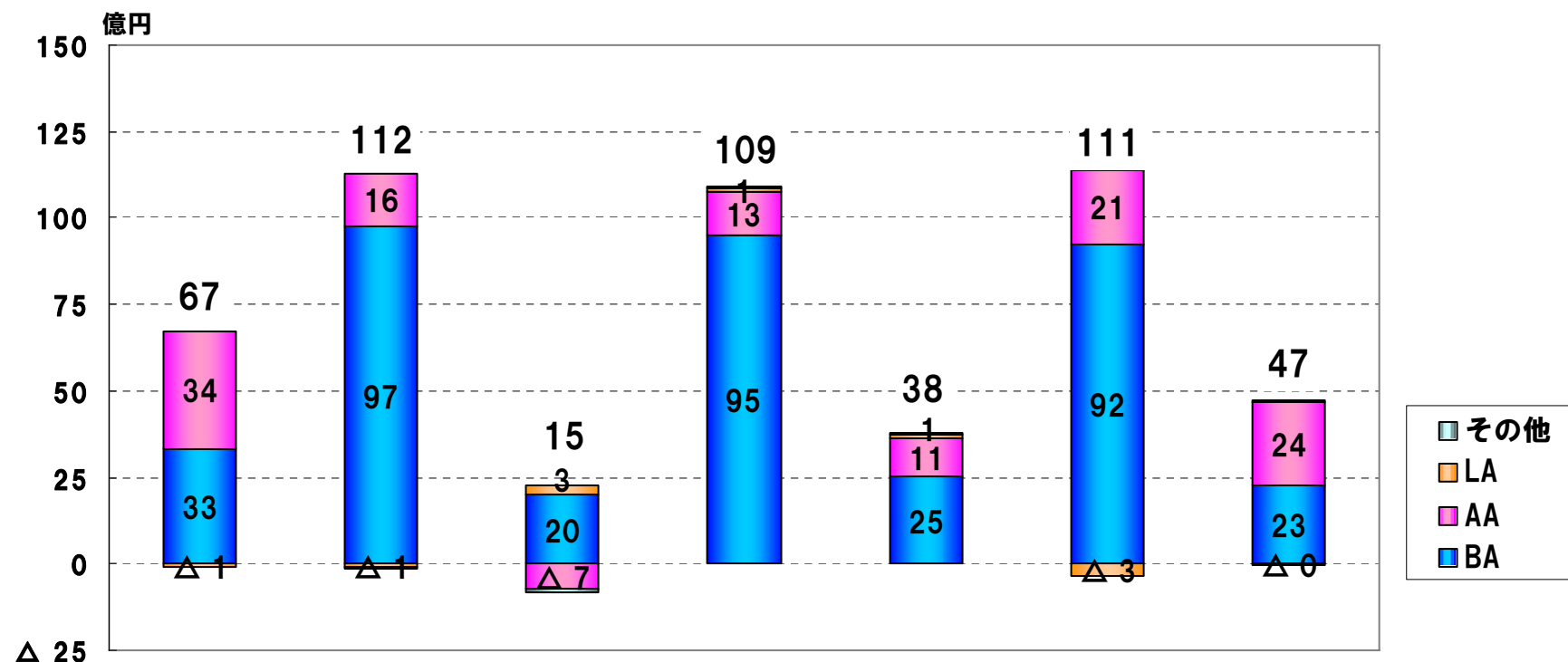
【参考】2008年度～2011年度 セグメント別売上高 推移



	2008年度 上期	2008年度 下期	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期	単位：億円
BA	419	584	400	567	422	599	444	
AA	474	463	343	426	379	431	410	
LA	187	173	178	170	171	155	162	
その他	42	38	21	32	30	22	25	
連結	1,115	1,247	935	1,187	993	1,199	1,033	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

【参考】2008年度～2011年度 セグメント利益(営業利益)推移



※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

2011年度 第2四半期決算 海外売上高

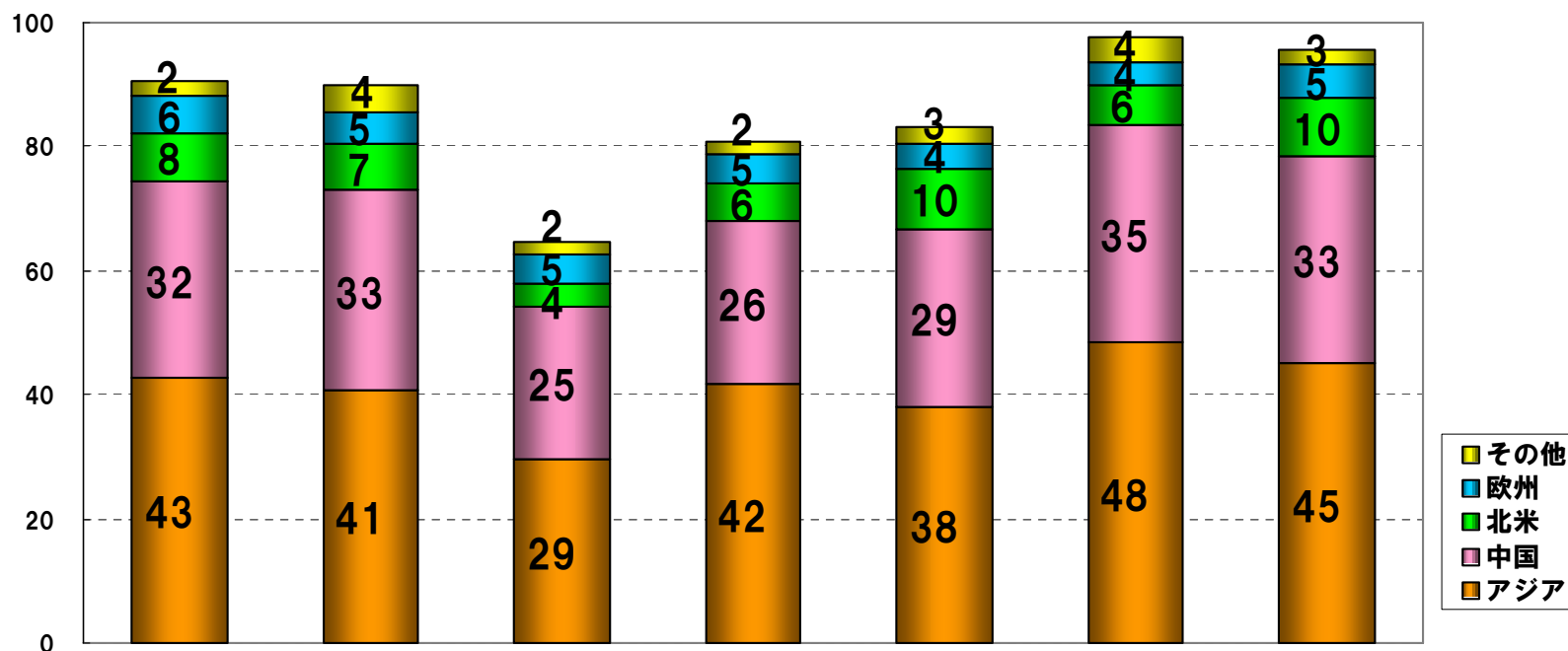


● 前年同期比で15.1%の伸長となるも、為替及び海外経済減速の影響を受ける。

- 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。
- 現地法人の事業年度につきましては、12月31日を期末日とする年度を採用しております。

2008年度 上期	2008年度 下期	2009年度 上期	2009年度 下期	2010年度 上期	2010年度 下期	2011年度 上期
91	90	65	81	83	98	96

単位：億円

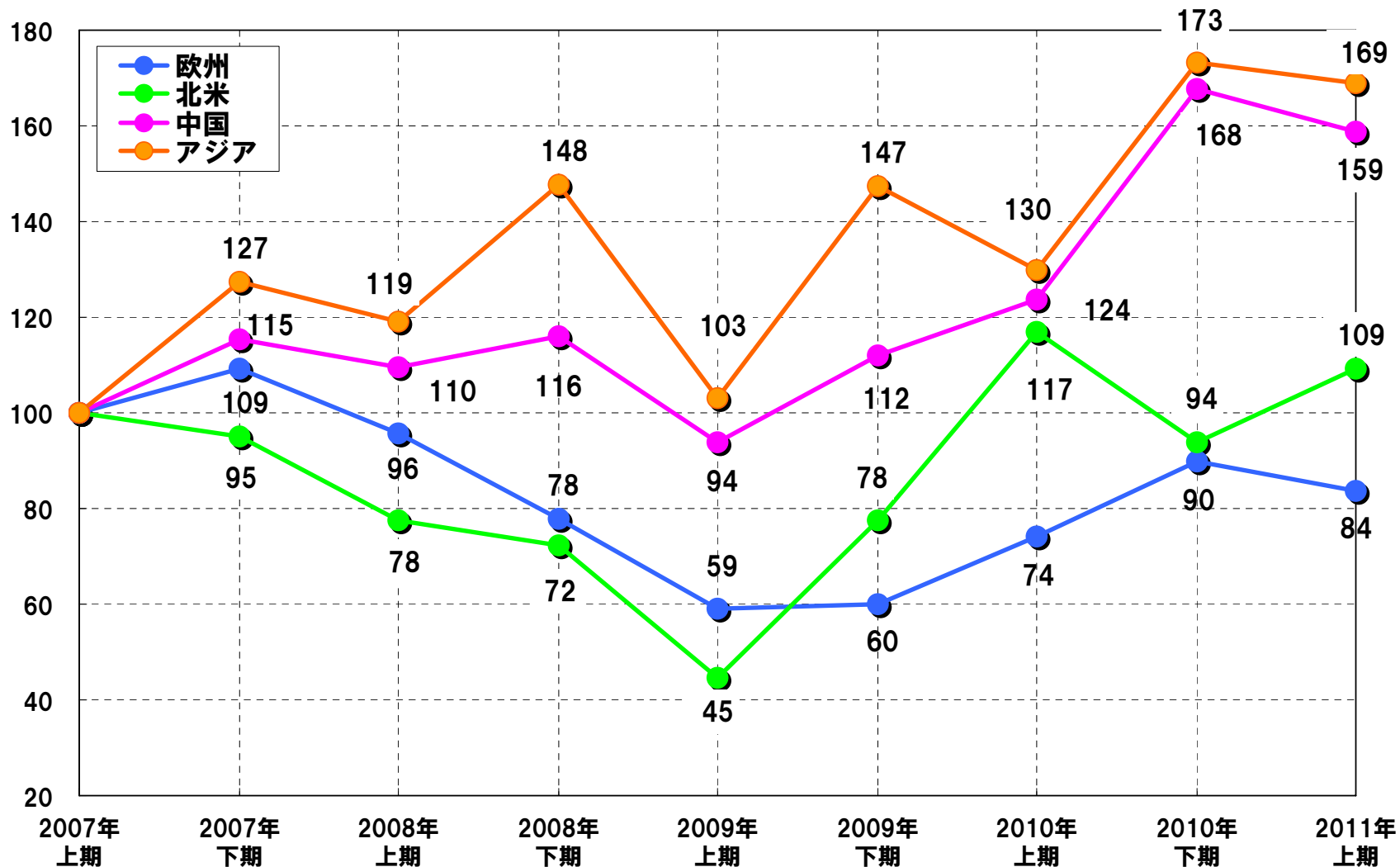


参考：期間平均レート

円/USドル	104.90	※ 103.49	95.60	※ 93.65	91.36	※ 87.79	82.02
円/ユーロ	160.61	※ 152.65	127.44	※ 130.36	121.24	※ 116.28	115.05
	※ 年間		※ 年間		※ 年間		

- 2011年度下期の円/USドルレートは75円を想定しております。

【参考】2007年度～2011年度 現地法人売上高 推移（現地通貨ベース）



- 2007年度を基準に各国現地通貨での売上高増減を比率で示しています。ただし、アジア地域につきましては、複数通貨が存在するため為替の影響を排除するにあたって、便宜上各年度の現地通貨金額に2007年度期間平均レートに乗じた金額を使用し、比率を求めています。
- 対象は現地法人のみで、直接輸出、間接輸出は含んでおりません。
- 現地法人の事業年度につきましては、12月31日を期末日とする年度を採用しております。

2011年度 第2四半期決算 連結財政状況



● 総資産は、売上債権の減少を主因に、2,091億円(前期末比84億円減)となる。

単位：億円

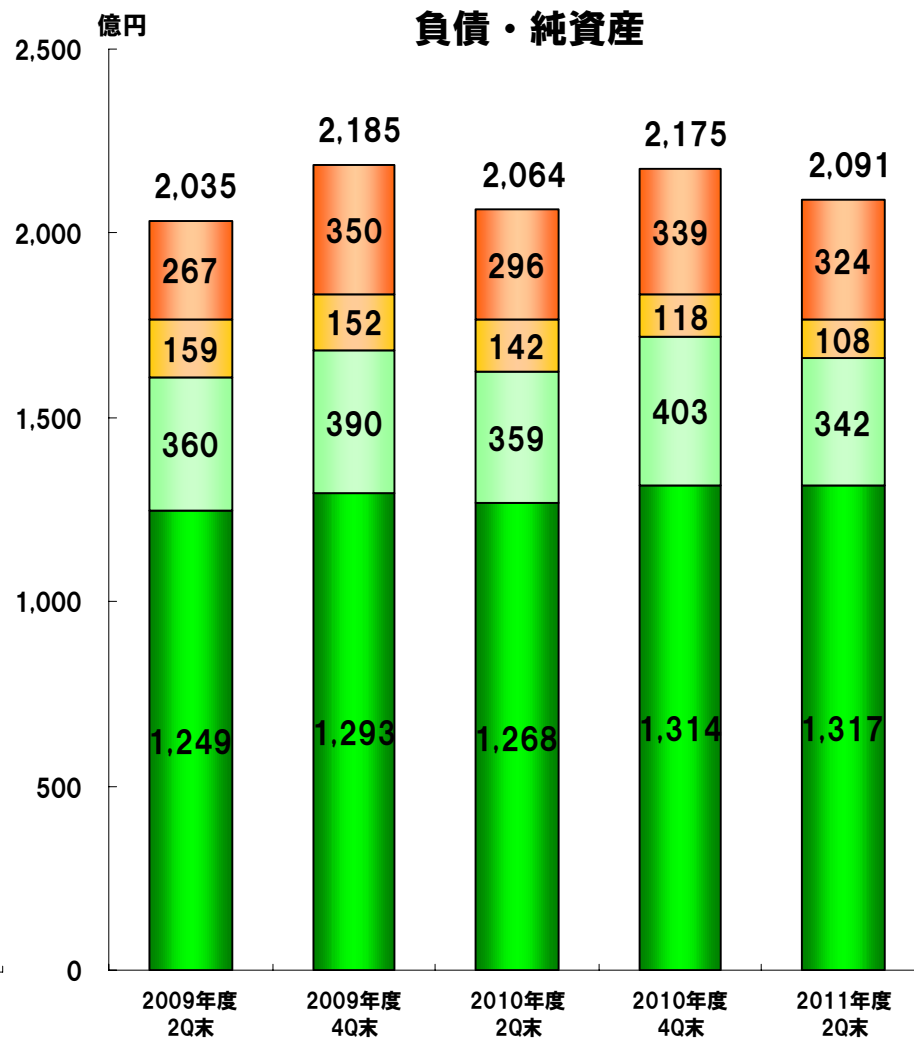
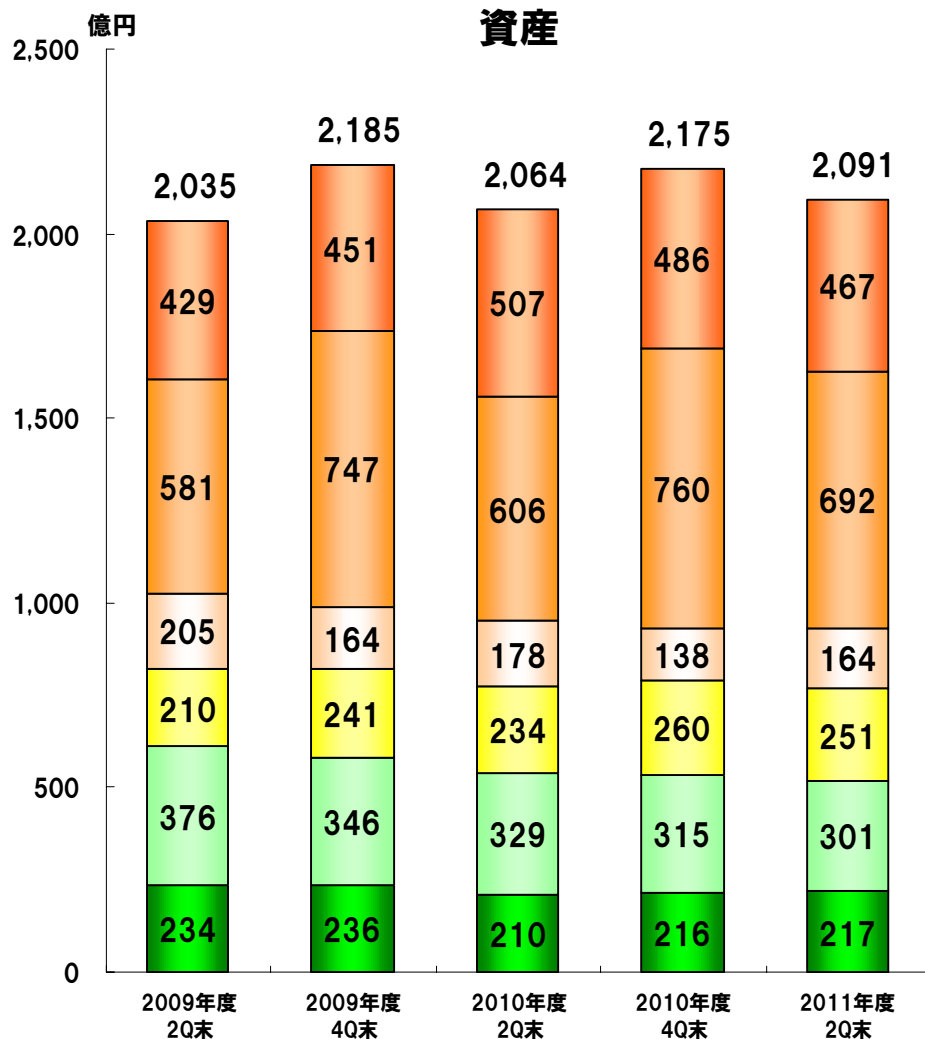
	2010年度		2011年度	増減	
	2Q末	4Q末	2Q末	前年同期比較	前期末比較
	(A)	(B)	(C)	(C) - (A)	(C) - (B)
流動資産	1,525	1,644	1,574	48	△ 70
現金及び預金	507	486	467	△ 40※1	△ 19
受取手形及び売掛金	606	760	692	86※2	△ 69
棚卸資産	178	138	164	△ 14※3	26
その他	234	260	251	17	△ 9
固定資産	539	531	518	△ 21	△ 13
有形固定資産	268	257	250	△ 18	△ 7
無形固定資産	61	58	51	△ 10	△ 7
投資その他の資産	210	216	217	7	1
資産合計	2,064	2,175	2,091	27	△ 84
負債	796	861	774	△ 22	△ 87
流動負債	641	655	572	△ 69	△ 82
仕入債務	296	339	324	28	△ 15
短期借入金／社債	135	57	54	△ 82※1	△ 3
その他	210	259	195	△ 15	△ 64
固定負債	155	206	202	47	△ 5
長期借入金／社債	6	62	54	48※1	△ 7
その他	149	145	148	△ 1	3
純資産	1,268	1,314	1,317	49	4
株主資本	1,244	1,288	1,289	44	1
資本金	105	105	105	-	-
資本剰余金	172	172	172	△ 0	△ 0
利益剰余金	994	1,037	1,038	44	1
自己株式	△ 26	△ 26	△ 26	△ 0	0
その他の包括利益累計額	7	8	10	3	1
新株予約権・少数株主持分	16	18	18	2	1
負債純資産合計	2,064	2,175	2,091	27	△ 84

※1 現金及び預金、借入金 金門製作所等の借入金の返済、減額及び借り換え等により、前年同期比減。

※2 受取手形及び売掛金 売上の増加及び2009年度に採用した工事進行基準売上の影響(採用後、完工基準売上が漸減)等により、前年同期比増。

※3 棚卸資産 2009年度に採用した工事進行基準売上の影響(採用後、完工基準売上が漸減)等により、前年同期比減。

【参考】2009年度～2011年度 連結財政状況の推移



■投資その他資産 ■有形・無形固定資産 ■其他流動資産
■棚卸資産 ■売上債権 ■現預金

■純資産 ■其他負債 ■借入金・社債 ■仕入債務

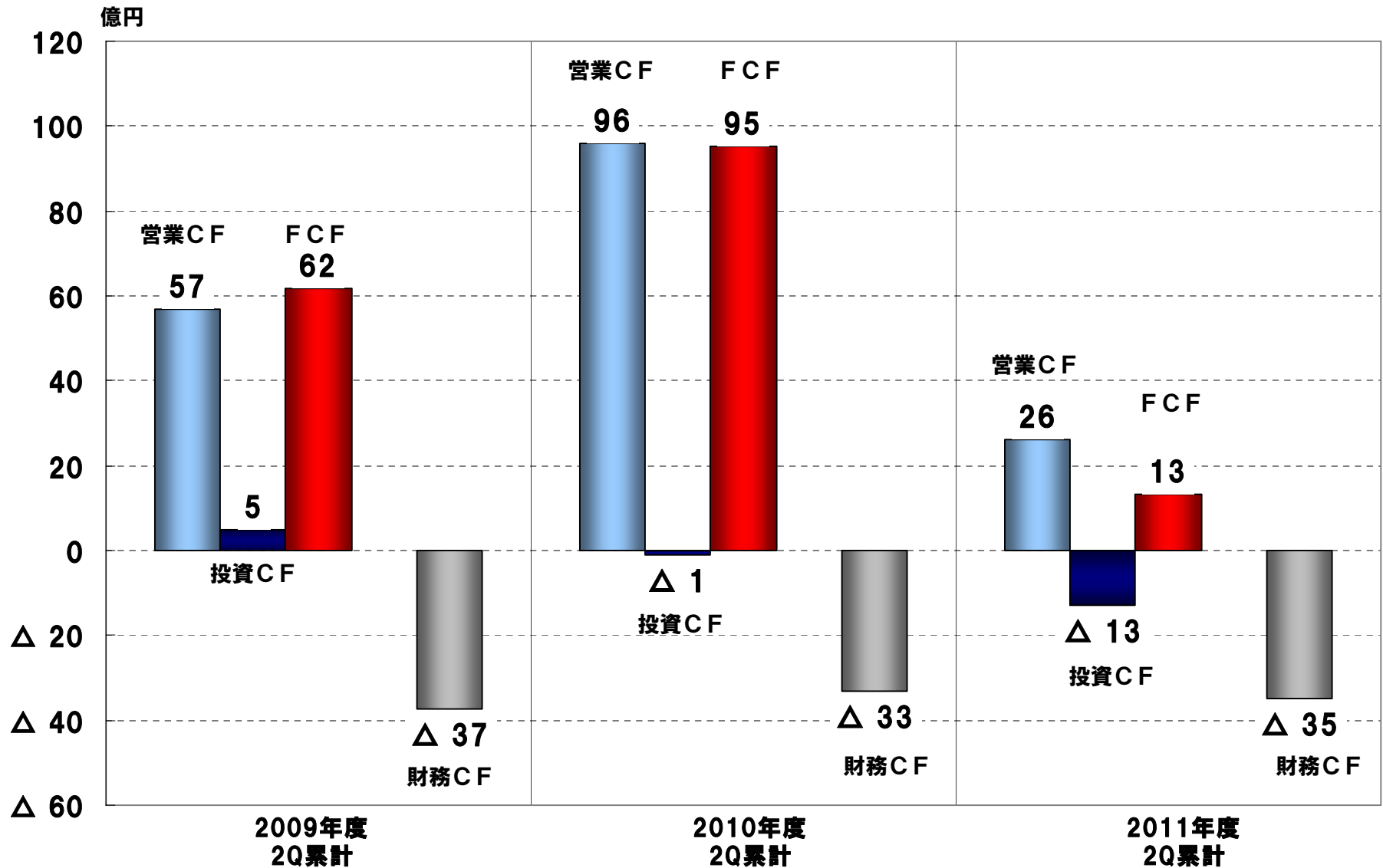
- 営業活動による資金は、前年同期比増益となったものの、売上の増加に伴う運転資金(売上債権－仕入債務)の増加及び期末法人税の支払い増加等により、26億となる。(前年同期比70億円減)
- 投資活動に使用された資金は、投資有価証券の売却による収入が減少したことにより、13億円となる。(前年同期比12億円増)
- 財務活動に使用された資金は、ほぼ同水準の35億円となる。

単位：億円

[参考]

	2010年度	2011年度			2010年度
	2Q累計 実績 (A)	2Q累計 実績 (B)	前年同期比増減		通期
			(B) - (A)	%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	96	26	△ 70	△72.8%	152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1	△ 13	△ 12	－	△ 23
フリー・キャッシュ・フロー	95	13	△ 82	△86.1%	129
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33	△ 35	△ 1	－	△ 80
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	△ 0	3	－	△ 5
現金及び現金同等物の増減額	59	△ 22	△ 81	－	45
現金及び現金同等物の期末残高	613	577	△ 36	△5.9%	598

【参考】2009年度～2011年度 連結キャッシュ・フローの推移



2 2011年度 通期業績計画



2011年度 連結業績計画(通期)



通期の連結業績目標を売上高で期初計画比20億円(0.9%)増の2,220億円、営業利益で10億円(7.7%)増の140億円に修正する。

- 第2四半期累計期間の業績は順調に推移し、期初計画を上回る実績を達成。
- 第3四半期以降については、欧州債務危機による経済不安、新興国経済成長の鈍化、超円高が国内輸出型産業に与える影響などにより事業環境の不透明さが急速に拡大しているため、前提条件の変化に合わせてセグメントで目標値を見直す。
- 修正計画の目標達成に邁進するとともに、引き続き「商いの創造(事業構造の変革)」に取り組む、事業環境の変化に迅速に対応することのできる企業体質と業績拡大に向けた事業の造り込みを徹底する。

単位：億円

	2010年度 通期 実績 (A)	2011年度					
		通期 修正計画 (B) (2011/10/28)	前年同期比増減		通期 期初計画 (C) (2011/5/10)	期初計画比増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
売上高	2,192	2,220	28	1.3%	2,200	20	0.9%
営業利益	149	140	△ 9	△6.0%	130	10	7.7%
営業利益率	6.8%	6.3%	△ 0.5		5.9%	0.4	
経常利益	149	138	△ 11	△7.3%	130	8	6.2%
当期純利益	79	78	△ 1	△1.6%	73	5	6.8%

2011年度 セグメント別業績計画(通期)



BA

概ね計画通りに事業環境は進展。このため、通期の売上高は期初計画通り1,040億円、セグメント利益についても期初計画と同じ106億円を見込む。

AA

第2四半期累計期間の業績は計画を上回ったものの、第3四半期以降の国内外における製造業設備投資の先行きに不透明感が強いため、通期の売上高は期初計画と同じ830億円、セグメント利益は2億円増の36億円を見込む。

LA

第2四半期累計期間における減収・減益を小幅に止めることができたため、通期売上高は期初計画比15億円増の325億円、セグメント損失は6億円改善の3億円を見込む。

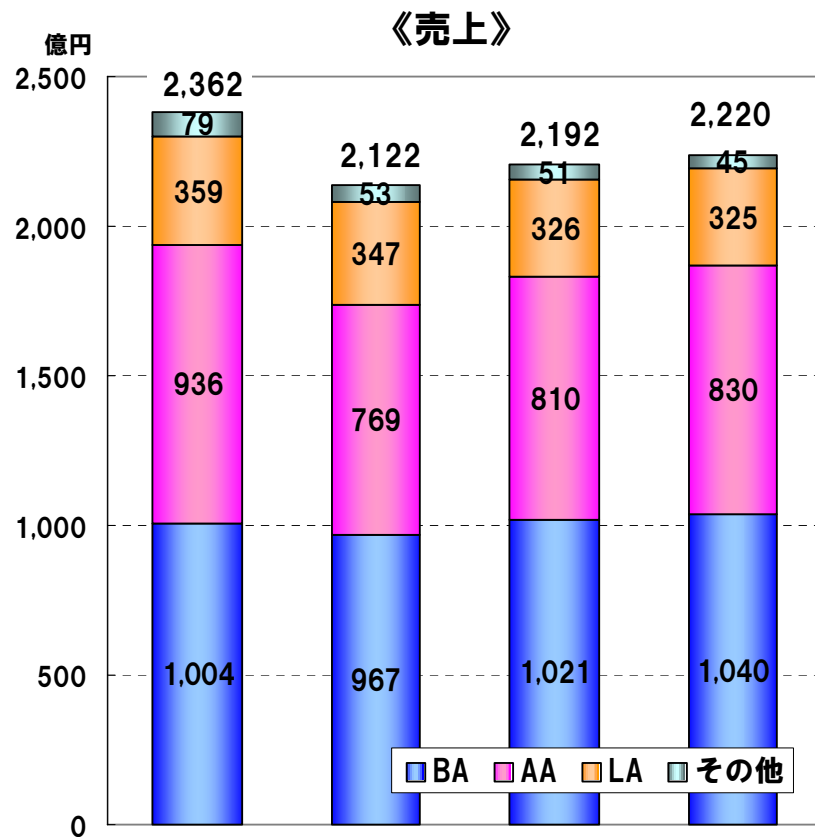
単位：億円

	2010年度		2011年度				
	通期実績 (A)	通期修正計画 (2011/10/28) (B)	前年同期比増減		通期 期初計画 (2011/5/10) (C)	期初計画比増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
B A 売上高	1,021	1,040	19	1.8%	1,040	—	—
セグメント利益	117	106	△ 11	△ 9.8%	106	—	—
%	11.5%	10.2%	△ 1.3		10.2%	—	
A A 売上高	810	830	20	2.5%	830	—	—
セグメント利益	32	36	4	11.3%	34	2	5.9%
%	4.0%	4.3%	0.3		4.1%	0.2	
L A 売上高	326	325	△ 1	△ 0.4%	310	15	4.8%
セグメント利益	△ 2	△ 3	△ 1	—	△ 9	6	—
%	△ 0.7%	△ 0.9%	△ 0.2		△ 2.9%	2.0	
その他 売上高	51	45	△ 6	△ 12.2%	40	5	12.5%
セグメント利益	1	1	△ 0	△ 31.0%	△ 1	2	—
%	2.8%	2.2%	△ 0.6		△ 2.5%	4.7	
連結 売上高	2,192	2,220	28	1.3%	2,200	20	0.9%
営業利益	149	140	△ 9	△ 6.0%	130	10	7.7%
営業利益率	6.8%	6.3%	△ 0.5		5.9%	0.4	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

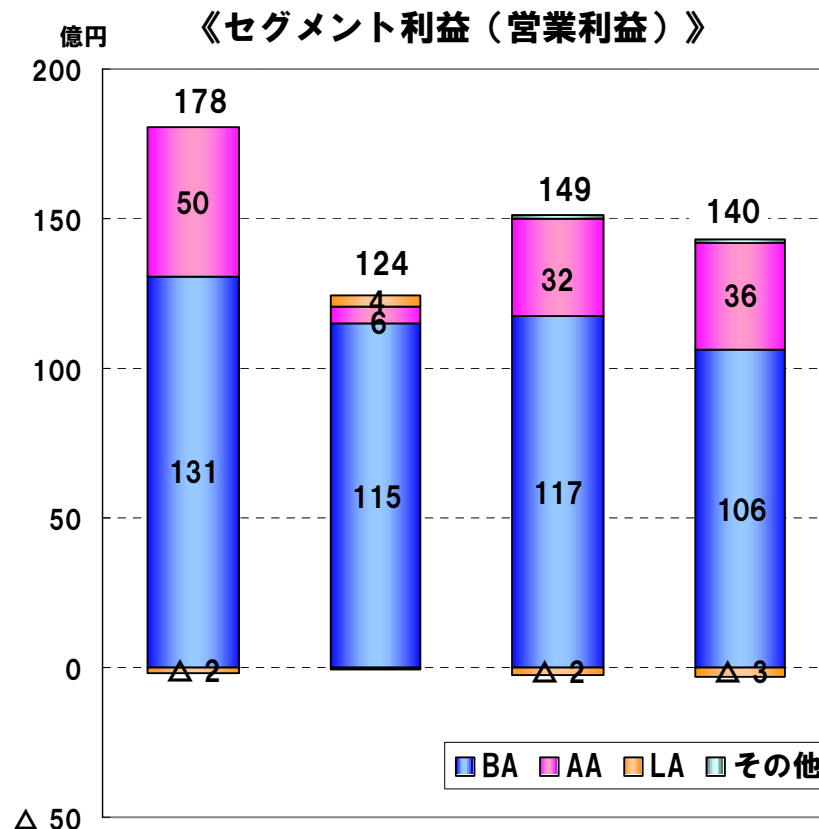
【参考】2008年度～2011年度

セグメント別業績推移と2011年度計画



単位：億円

	2008年度実績	2009年度実績	2010年度実績	2011年度修正計画
BA	1,004	967	1,021	1,040
AA	936	769	810	830
LA	359	347	326	325
その他	79	53	51	45
合計	2,362	2,122	2,192	2,220



△ 50

単位：億円

	2008年度実績	2009年度実績	2010年度実績	2011年度修正計画
BA	131	115	117	106
AA	50	6	32	36
LA	△ 2	4	△ 2	△ 3
その他	△ 1	△ 0	1	1
合計	178	124	149	140

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

～ 商品と現場ソリューション ～

azbilグループならではの

3

- 「商いの創造」上期取組みの成果
- 海外事業における「商いの創造」事例



「商いの創造(事業構造の変革)」は発展期(2010～2013年度)の基本方針に従って着実に進展。

【発展期基本方針の振り返り】

商いの創造 (事業構造の変革)

BA

快適・安全・地球環境問題に貢献する次世代環境制御事業へと発展させる。

AA

付加価値の高いソリューションとフィールド商品を強みとして、顧客の事業力強化に貢献できる価値をグローバルに提供する。

LA

現事業のコスト競争力の強化と安心できる暮らしに貢献する事業へ進化させる。

働きの創造 (業務構造の変革)

- 業務の構造化・可視化の推進
- カンパニー制とグループ横断機能の組合せによるネットワーク経営
～ 販売協働体制強化、生産体制の最適化、商品開発力強化、サービス体制強化 ～

気持ち創り(新しい企業文化の創造)

BA

ライフサイクルでの現場ソリューションの提供
(運用面から顧客資産価値の維持・向上に貢献)

市場化テストで大規模物件の受注を獲得

- ✓ 公共サービスの民間委託の動きを捉えた事業拡大。
- ✓ 従来の機器メンテナンスに加えて建物の運営管理全般のサービスをライフサイクルで提供。



環境・エネルギー問題等、都市が抱える課題の解決に貢献

「スマートシティプロジェクト」への参加

- ✓ 世界最高水準の次世代環境都市（スマートシティ）実現にむけてリーディング企業が参集する「スマートシティプロジェクト」に参加。
- ✓ 建物単体の省エネルギー、エネルギー管理システム(BEMS)から、地域全体のエネルギー最適制御、環境共生の実現に向けた先端技術・ノウハウの取得を目指す。

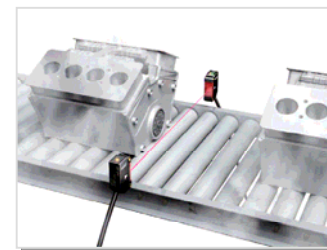
AA

顧客ニーズに応える商品開発

(更なる高付加価値化や品質向上のための生産現場ニーズに対応し、既存分野から新たな成長分野へ事業領域を拡大)

様々な現場のニーズに応える新光電センサ

- ✓ LED照明による誤動作防止等、新たな現場のニーズに応える新製品。
- ✓ 迅速な商品化と市場への投入（生産ラインの構築）を実現する全社技術開発体制。



現場での使いやすさを追求！
光電センサ HP7シリーズ



LA

現場サービス力を活かす商品力強化

(他社提携を通して商品力を強化、安心・安全を拡大)

モバイル版緊急通報サービス
ナースホン-あんしんペンダント

モバイル機器を活用して緊急通報サービスを強化

- ✓ 新たな自治体向け緊急通報サービス「ナースホン-あんしんペンダント」をソフトバンクモバイルと協力して開発、販売を開始。
- ✓ 利用者約64,000人※を誇る民間業界第1位の安心で安全な高品位サービスの利用が、固定電話回線のない環境をはじめより広範囲で可能に。

※2011年3月現在



azbilグループならではのサービスを創り上げ、提供するために
緊急通報、介護を行うグループ会社の経営を統合

緊急通報・看護と介護の技術やノウハウを融合、最大限に活用したazbilグループならではのサービスを提供するため安全センターと山武ケアネットを2012年4月1日をもって経営統合し、新社名を「アズビルあんしんケアサポート株式会社」とします。

* 「みまもりケータイ」は、ソフトバンクモバイル株式会社の商標です。

健康的な住空間を求めるより多くのニーズに応える新商品開発

(住宅用全館空調システム)

新商品投入に合わせ「きくばり」の事業体制を強化

- ✓ 一戸建ての中心領域(30~35坪)向けに新商品を開発、より多くのお施主様にヒートショックやハウスダスト・花粉の無い健康的な住空間を提供。
- ✓ 営業体制、技術開発体制を強化。
- ✓ 全館空調の良さをご理解いただくため、日本最大規模の住宅展示場内にショールーム「ブラッツきくばり」を開設(2011年8月)。



ショールーム「ブラッツ きくばり」

海外ソリューション型の商品・サービスの展開が着実に拡大

金門製作所ガスメータの海外生産等、 現地ニーズを捉えた商品力の強化

- 台湾における法改正にあわせマイコンガスメータの現地生産・販売を開始
- 米国現地法人のデザインセンター機能を強化。米国先進装置メーカー向けにターンキーのユニット計装を提供する等、事業を拡大
- 中国における流量計ビジネス拡大のため流量校正設備を設置



アズビル金門台湾有限公司

BA、AA協業による事業拡大

- 日本での豊富な実績と現地法人のケーパビリティが評価され、シンガポールにおけるDCS（地域冷房）プラントの約7割を競合に打ち勝ち獲得
- シンガポールでの実績をベースに提案活動を展開、他地域（天津エコシティー等）での事業が着実に拡大

ライフサイクルでのサポート事業の拡大

- 既存設備の機能維持を実現するAEP (azbil Global Evolution Program) の拡大
- アジアにおけるバルブメンテナンス事業が伸長。メンテナンス体制を強化。



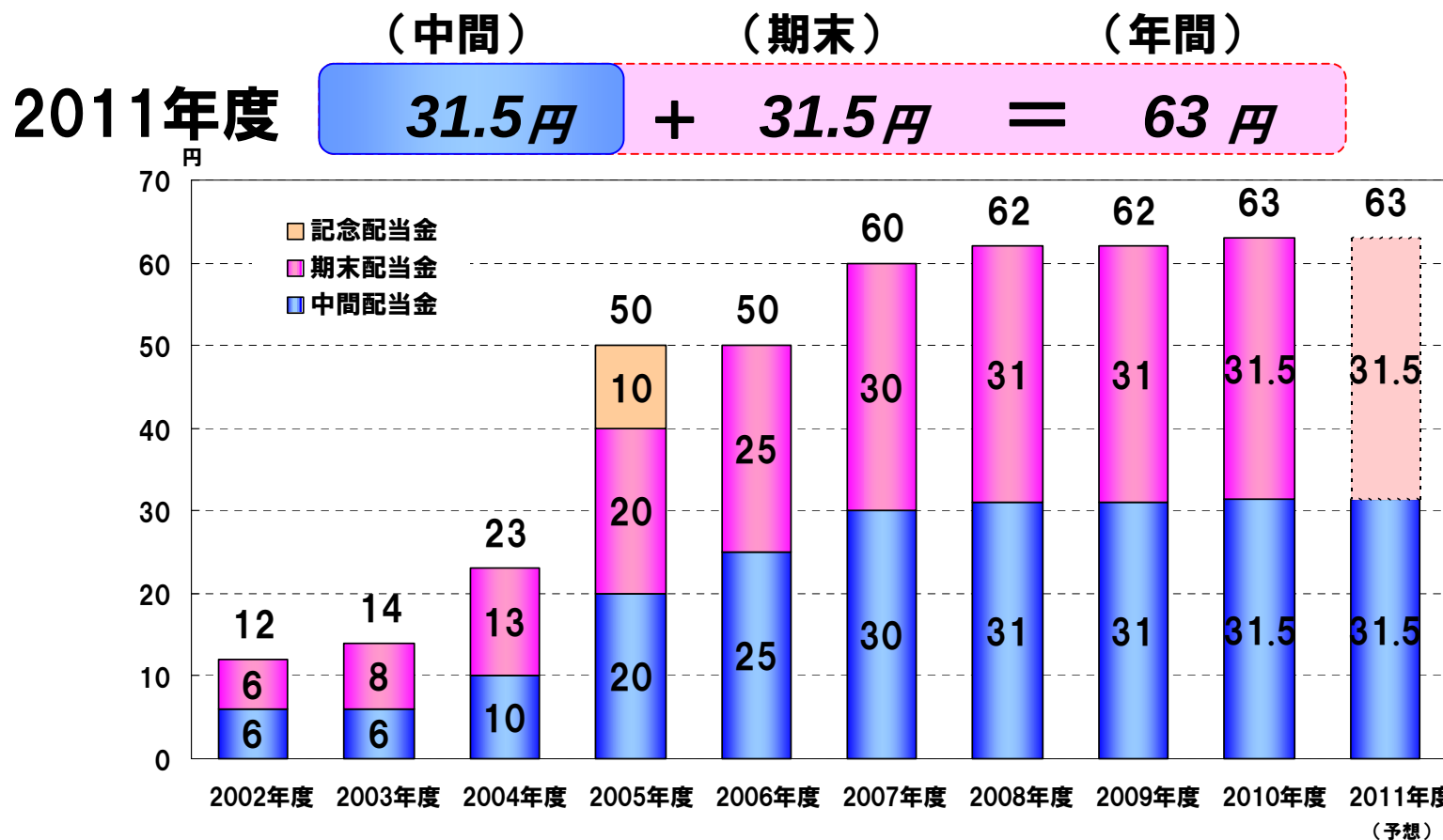
4

株主への利益還元



2011年度 中間配当・期末配当予想

- 公表通り中間配当・期末配当とも一株あたり31.5円、
年間で一株当たり63円の配当を予想



年間配当金	円	12	14	23	50	50	60	62	62	63	63
純資産配当率	%	0.9	1.1	1.7	3.5	3.2	3.7	3.7	3.6	3.6	※ 3.5
配当性向	%	16.6	31.8	45.6	37.6	34.6	41.2	48.5	73.4	58.7	※ 59.7

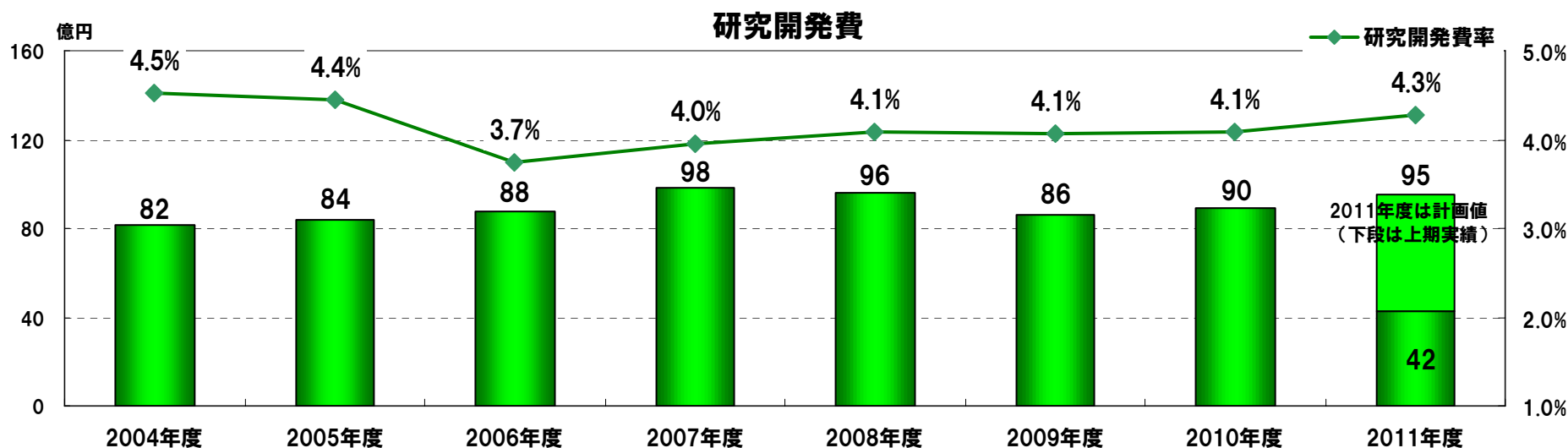
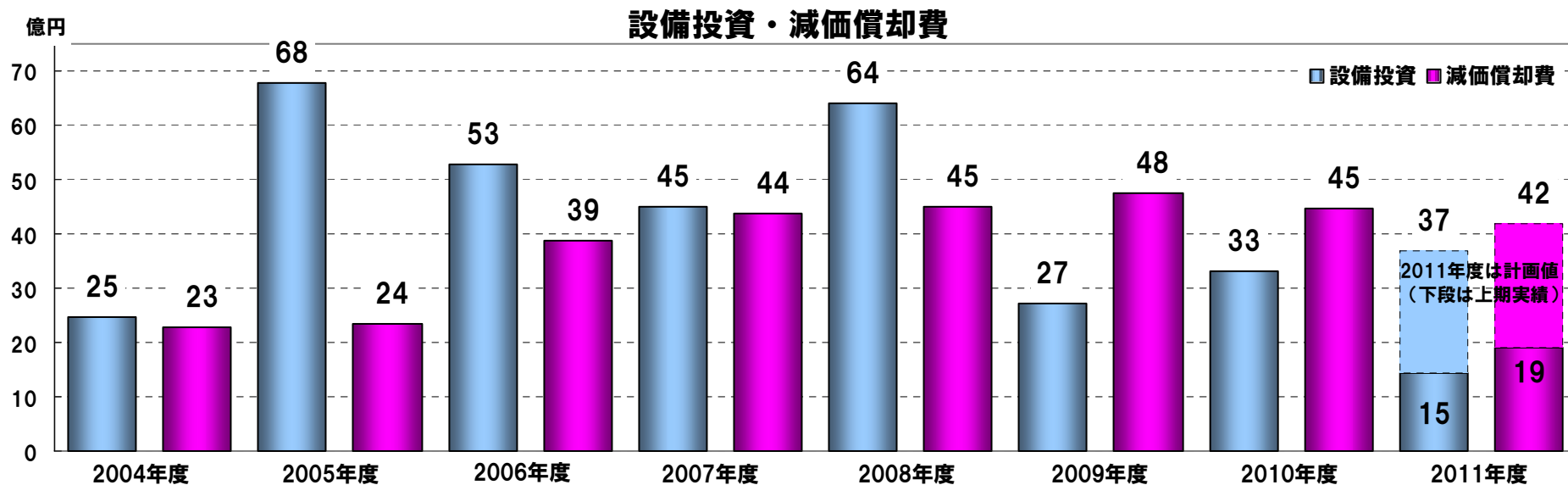
※ 参考値



その他



設備投資・減価償却費・研究開発費



創業105周年、「azbil」制定5周年を機に
「株式会社 山武」から新社名に変更します。

2012年 4月1日

アズビル株式会社
(Azbil Corporation)

国内主要各社も同時に「アズビル」を冠する社名に変更します。

(2012年4月1日)

国内社名変更予定各社と新社名

azbil

現社名	新社名
株式会社 山武	アズビル株式会社
株式会社 山武商会	アズビル商事株式会社
山武コントロールプロダクト株式会社	アズビル プロダクツ株式会社
山武フレンドリー株式会社	アズビル フレンドリー株式会社
山武ケアネット株式会社	アズビルあんしんケアサポート株式会社※
安全センター株式会社	
セキュリティフライデー株式会社	アズビル セキュリティフライデー株式会社
株式会社 金門製作所	アズビル金門株式会社
株式会社 青森製作所	アズビル金門青森株式会社
和歌山精器株式会社	アズビル金門和歌山株式会社
白河精機株式会社	アズビル金門白河株式会社
株式会社 金門白沢	アズビル金門白沢株式会社
株式会社 金門会津	アズビル金門会津株式会社
株式会社 金門原町	アズビル金門原町株式会社
株式会社 金門唐津	アズビル金門唐津株式会社
株式会社 山武瑞穂	アズビル京都株式会社
ロイヤルコントロールズ株式会社	アズビル ロイヤルコントロールズ株式会社
株式会社 太信	アズビル太信株式会社

※ 緊急通報事業を展開する安全センター株式会社と介護支援事業を展開する山武ケアネット株式会社は、2012年4月1日に経営統合のうえ、新社名を「アズビルあんしんケアサポート株式会社」に変更いたします。

azbilグループ海外現地法人各社

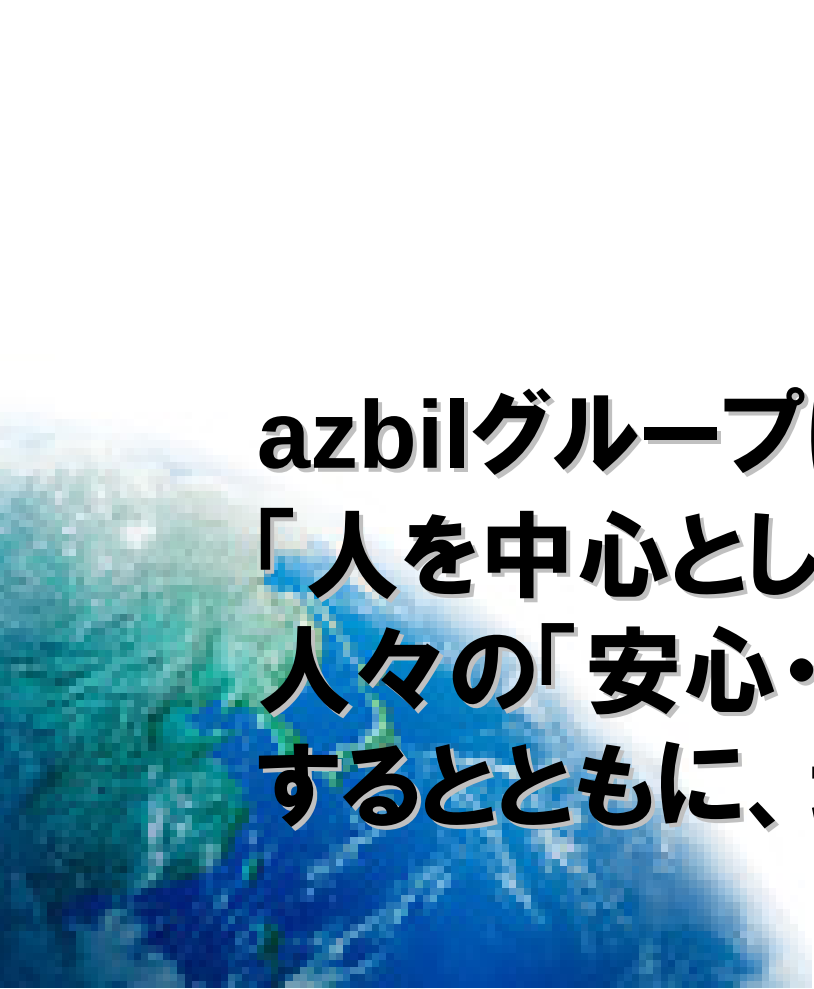


アズビル韓国株式会社
アズビル台湾株式会社
アズビル金門台湾有限公司
アズビルベトナム有限会社
アズビルインド株式会社
アズビルタイランド株式会社
アズビルフィリピン株式会社
アズビルマレーシア株式会社
アズビルシンガポール株式会社
アズビル・ベルカ・インドネシア株式会社

アズビル機器（大連）有限公司
アズビル情報技術センター（大連）有限公司
アズビルコントロールソリューション（上海）有限公司
上海アズビル制御機器有限公司
アズビル香港有限公司
アズビルノースアメリカ株式会社
アズビルバイオビジラント株式会社 ※
アズビルブラジル有限会社
アズビルヨーロッパ株式会社

※ 2012年1月1日からバイオビジラントシステムズ株式会社は
アズビルバイオビジラント株式会社に社名を変更いたします。

海外現地法人については、2008年度に社名変更を実施済みです。
～現在、統一されたazbilのブランドの下、BA、AA、LAのサービスを提供中～

The background of the upper half of the slide is a stylized, pixelated image of a globe, showing blue oceans and green landmasses.

**azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心・快適・達成感」を実現
するとともに、地球環境に貢献します。**



この3人は企業広告のキャラクターです。

左から「ビリー」「一平」「リサ」。彼らの名前の頭文字がそれぞれazbilグループの基幹事業名を表しています。すなわち、Buildingの“B”、Industrialの“I”、Lifeの“L”です。

azbilグループの成長と一緒に彼らも成長していきます。